

# 防コミの歩き方



## シェイクアウト訓練

1月15日を中心として、神戸市内の各地でシェイクアウト訓練が実施されました。

### ●シェイクアウト訓練とは

「姿勢を低く、頭を守って、動かない」という「3つの安全行動」を実行する、どこでも、だれでも気軽に参加できる、一斉におこなう防災訓練です。

2008年にアメリカでスタートした訓練で、平成26年度現在、日本では約420万人、世界では約2,600万人が参加しています。



「シェイクアウト」は「(地震の)揺れに備えろ!」という安全行動の標語、かけ声をイメージして、アメリカの地震研究チームが研究成果を広く知らせる防災訓練のために考えた造語です。従って“Shake”を“Out”するといった英単語の組み合わせではなく“ShakeOut”でひとつの単語です。

シェイクアウトは防災訓練の手法ではなく、取り組み(たとえば「クールビズ」など)として世界的に広まっています。日本も地震大国としてこの取り組みに賛同し、シェイクアウトの名称やドロップ、カバー、ホールドオンという表現を用いています。

ただし、英語だけでなく日本国内ではわかりにくいので、シェイクアウトは「いっせい(一斉)防災訓練」、ドロップ・カバー・ホールドオンはそれぞれ「まず低く、頭を守り、動か

ない」と意識した言葉で表現しています。

この訓練の特徴は(1)統一した地震シナリオに基づき(2)訓練日時を指定し(3)Drop Cover Hold onという身の安全を守るための短時間の統一行動への一斉参加を住民に呼びかけていることにあります。

### ●神戸市シェイクアウト訓練

神戸市では1月15日10時から、初めて「神戸市シェイクアウト訓練」を実施し、約34万6千名が参加しました(前後2週間に実施した方を含む)。

また各地で防災福祉コミュニティや事業所を中心としてプラズワンの防災訓練として、避難訓練、消火訓練、備蓄物資の確認などの訓練を実施しました。

あの阪神・淡路大震災から20年が過ぎましたが、国内外では大規模な災害が相次いで発生しています。近い将来発生が予測されている南海トラフ巨大地震にも備えるためシェイクアウト訓練を機会に、定期的な防災訓練に取り組んでください。

(予防課 谷輪文彦)

